

里見公園の見どころ



城跡



巨木



明戸古墳の石棺



里見軍将兵慰霊碑



夜泣き石

巨木

巨木とは、高さ1.3mにおける幹周りが300センチメートル以上あるものをいう。歴史のある街だけに、市川市内には数多くの巨木が点在している。里見公園では「市川市最高標高地点30.1m」標識のそばにあるシラカシ。幹の太さはもちろんだが、横枝に目をやるとその年季が実感される。市川に暮らす人々の何世代にもわたる営みをこの高台から見守っていたその存在感が、我々に安らぎを与えてくれる。

明戸古墳の石棺

公園の一角にある2つの石棺は、6世紀後半のものだと推定される前方後円墳の露出したものだ。全長約40メートル、後円部径約21メートルと推定される。

夜泣き石

第2次国府台合戦の戦場に、安房から父親を探し12、13歳の姫が現れた。ところがこの惨状に悲嘆の涙に暮れ、心も体も疲れ果てて傍らの石にもたれたまま息を引き取ったという。以来、夜になるとシクシクこの石から姫の泣き声が聞こえるようになり、村人たちはこれを哀れんで姫を供養したところ、泣き声は聞こえなくなったという。この夜泣き石はながらく総寧寺境内にあったが、最近、現在の位置に移された。

里見軍将兵慰霊碑

公園西側の丘の木立の中に、ひっそりと並ぶ3基の石塔。右から「里見廣次公廟 里見先祖代々」「里見諸将群霊墓」「里見諸士群亡塚」と刻まれている。これは戦国の世に安房から興った里見氏の2度にわたる合戦、特に第2次国府台合戦で2000人とも5000人とも言われる戦死者を出したことから、これらの将兵を哀れんで後の世の人が建てたものだ。中央と左の碑についてはそれぞれに1829（文政12）年の建碑と刻まれているが、右の碑には「施主石井辰五郎」とあるだけでいつ建てられたものかわからない。しかし、今は平和なこの場所で、かつて多くの人々が戦いによって死んでいったという重い歴史に私たちが目を向けたい。

下総台地の西端江戸川に面した台地にあるこの公園は、中世に築かれた国府台城の跡だ。1479年に太田道灌が、白井にこもる千葉孝胤（たかたね）征伐のために築いたものがその始まりと伝えられている。しかし以後、足利義

5 里見公園



発見されている。春・夏は緑に覆われ分かりづらいものの、冬場ははつきりとしたそのカギ穴のような形を目にすることができ。実は身近にこんなにごい古墳があるのだ。

6 総寧寺

曹洞宗関東僧祿司のひとつで、1383（永徳3）年、近江国観音寺城主・佐々木氏頼の祈願によって近江国に建てられたものを1575（天正3）年、北条氏政の帰依するところになって下

明・里見義堯らの軍勢と北条氏綱軍との戦い（第1次国府台合戦、1538年）、里見義堯の子である義弘・太田資高軍と北条氏康・氏政父子軍との戦い（第2次国府台合戦、1564・65年）を経て徳川家康の関東支配によって国府台城は廃城に。家綱の時代に関宿（せきやど）から総寧寺が移される。



総寧寺の寺として在った総寧寺の当時の繁栄ぶりは『江戸名所図会』に詳しい。現在の里見公園もほとんどは、この寺の敷地だったのだ。ちなみに総寧寺が関宿から移転された時に一緒に移されたのが関宿城主・

小等原政信夫妻の供養塔。総寧寺歴代住職が眠る墓地の北側の、南に面した2基の五輪塔がそれだ。



した。この時、どこからともなくコウノトリが飛来して浅瀬を教えてくれた。そこで尊の軍勢は難無く武蔵国に渡ることができた。尊はコウノトリに褒美としてこの台地を与え、以後、「コウノトリに与えた台地」からコウノ台の地名が起った」とある。国府台は下総国の国府が置かれたことからその名が付いたことに間違いはないが、こういった伝説から鴻（江の鳥）之台とも書くようになった。国府神社はこのコウノトリ伝説を裏付ける神社。というも現在、国府台

3 下総総社跡

千葉県北部から茨城県西南部、そして東京都と埼玉県の一部は「下総国」と呼ばれていたが、これは天武天皇の時代、日本全土が60余万国に分けて整備されて以来の呼び名だ。分けられたそれぞれの「国」には「国府」という地方政治の中心地が設けられたわけだが、下総国の国府は、現在の市川市国府台にあった。ただ、国府台のどこにあったかについては定かではなく、諸説あり、そのひとつがスポーツセンター内の「下総総社跡」の碑が建つあたりだ。総社というのは、「国」を治める「国司（こくし）」の任務の中に、「国内」にある神社を毎年巡拝して奉幣祭祀するというものがあり、これがなかなか大変な仕事であるために国府の近くに社（やしろ）を設けて諸社の御神体を合祀したというもの。総社と同様の趣旨で設けられたといわれる社は「六所（ろくじよ）神社」とも呼ばれた。現在のスポーツセンターの一角に他の土地よりも高く盛り上がり大樹も多く、「六所の森」の名で呼ばれていたこともあって、この地に総社、そして国府があったのではないかとということから碑が建てられた。



現在の文教地域になる前は半世紀以上軍用地として使われてきた歴史もある。いずれにしても、ミステリアスな土地、であることは確かなのだ。

4 法皇塚古墳

現在、東京医科歯科大学構内にあるのが前方後円墳の法皇塚古墳だ。現存部分で全長58メートル、後円部の直径24メートル、前方部先端の幅28メートル、そして高さは5メートルあり、下総西南部では最大規模の古墳になる。床面の部分は石敷きされ、そこからは甲冑（かっちゅう）、大刀（たち）、金張りの馬具といった数多くの副葬品も

